

火じや地しんがおきたとき、どうしたよいか、かんがえよう

() くみ なまえ ()

① たいせつなこと

火じや地しんがおきたときは、すぐにひなんをします。

「お・か・し・も」のやくそくをまもります！



やることその① ひなんをするときにたいせつな「お・か・し・も」はなんのことか、下に書きます。

「お」	おさない
「か」	
「し」	
「も」	





やることその② おうちにいるとき、火じや地しんがおきたらどうするか、さいしょはじぶんでかんがえて、おうちの人に話してみましよう。そのあと、おうちの人と話し合ったことを、下に書きます。

こんなとき	どうする
(書きかたのれい) もしも、ねているときに地しんがおきたら…	まず、ふとんやまくらをかぶってあたまをまもります。すごく大きな地しんだったら、ゆれがおさまってからそとに出ます。
もしも、 <u>ねているとき</u> に <u>地しん</u> がおきたら…	
もしも、 <u>ごはんを食べているとき</u> に <u>地しん</u> がおきたら…	
もしも、 <u>ねているとき</u> に <u>火じ</u> がおきたら…	

★おうちの方へ★

お子様が家庭にいる時間が長い今、改めて防災（特に命を守る行動）について考えてみましょう。

やることその②については、ご家庭の様子を具体的にイメージして考えられるよう、声かけをしてみてください。

（例えば、寝室で倒れてきそうなものはないか、ダイニングテーブルの下に家族全員もぐれるか、一番近い避難場所はどこか等）。また、入浴中や子どもだけで家にいるとき等を想定して考えてみるのも良いです。考えて書くだけでなく、実物を見たり体験をしたりすることで、子どもたちの理解が深まります。ご家庭の非常持ち出し袋に何が入っているか・備蓄品がどこに保管してあるかを一緒に確認したり、上記のような場面を想定して「おうち避難訓練」をしてみたりするのも効果的です。